



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2019年度 No.3)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC 賞授賞のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2019 開催のご報告
- ◆2020 年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2020(第 19 回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆電子情報通信学会「ヒューマンコミュニケーション特集号」(和文論文誌 A) 論文募集のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HIP)
- ◆研究会活動紹介 (CEA)

---

## HC 賞授賞のご報告

庶務幹事  
小泉直也 (電通大)

---

令和元年度ヒューマンコミュニケーション (HC)賞授賞式が、令和元年 12 月 12 日 (木)、ヒロシマコンベンションホール(HCG シンポジウム 2019 懇親会会場)にて開催され、受賞者に賞状と副賞のクリスタル盾が贈呈されました。HC 賞は、過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の第一種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)における技術研究報告を対象とし、各研究専門委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。受賞件数は発表 25 件につき 1 件、以降 50 件ごとに 1 件を基準としており、HCG が授与する賞の中で最も権威の高い賞となります。

本年度の受賞は次の 5 件の発表です。

1. 「データ駆動処理による顔支配性印象のモデル化」(HCS2018-75)
2. 「人の合奏と人工知能の合奏 ～ 人工知能オーケストラ実現にむけて ～」(HCS2019-21)
3. 「意味空間学習モデルの構築と側頭極における機能的役割の検討」(HIP2018-57)
4. 「多人数講義における講師分身エージェントを用いたコミュニケーションの促進」(MVE2018-47)
5. 「在宅高齢者を対象とした「こころ」の見守りサービスの試作と予備的評価」(WIT2019-9)

いずれもコミュニケーションにおける課題に取り組んだ魅力的な研究であり、研究視点、手法、結果の新規性、独自性および有効性、各分野への発展性や応用可能性などの観点から高く評価されました。

受賞一覧は下記 URL よりご覧いただけます。各発表の技術研究報告もぜひあわせてご覧ください。

<https://www.hcg-ieice.org/2019-hc-awards/>

=====

HCG シンポジウム 2019 開催のご報告

企画幹事  
青木良輔 (NTT)

-----

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催の HCG シンポジウム 2019 (17 回目) が、広島県の広島県情報プラザにて 2019 年 12 月 11 日 (水) ~13 日 (金) の日程で開催されました。今年度の発表件数は、98 件 (口頭発表とインタラクティブ発表: 66 件, 口頭発表のみ: 5 件, インタラクティブ発表のみ: 27 件) で、参加者数は 202 名でした。

すべての口頭発表者がインタラクティブ発表 (ポスタ・デモ) できるという本シンポジウムの特徴は、多くの発表者に浸透しており、今年度も口頭発表者の 93% の人がインタラクティブ発表しました。インタラクティブ発表の時間が短いというコメントをいただけるほど有意義な議論の場となり、今年度も三日間のインタラクティブセッションのそれぞれに対して、参加者の投票により決定されるインタラクティブ発表賞 (最優秀・優秀・学生優秀) が贈られました。

受賞者一覧:

<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2019/award#top>

招待講演には、「記憶の解凍」: 資料の”フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承というタイトルで東京大学の渡邊先生に講演をいただき、情報学とデザイン学の観点から記憶を未来に継承する取り組みについてご紹介いただきました。

2017 年度より始まったチュートリアル講演は人気が高く、心理学×工学・情報科学 (2017 年度)、心理統計学×工学・情報科学 (2018 年度) と続いており、今年度は生理学×工学・情報科学ということで、広島大学の中尾先生に「生理指標による心の測定は可能か?」というタイトルで講演をいただき、生体情報に基づいたものごとの解釈の仕方や捉え方などをご紹介いただきました。

また、特別セッションでは、「障がいのあるお子さんの算数指導」「手話認識・翻訳の現状と今後」「デザイン思考で研究をメンタリングしてみる!」と題して招待講演が行われました。また、あるテーマに関係する発表者を集めた特集テーマセッションでは、ソーシャル・インタラクティブをテーマにしたセッションが生まれ、優秀な発表に対しては、特集テーマセッション賞が贈られました。

次回の HCG シンポジウム 2020 は、2020 年 12 月 15 日 (火) ~2020 年 12 月 17 日 (木) の日程で、香川県高松市のサンポートホール高松にて開催される予定です。みなさまのご参加をお待ちしています。

---

2020年総合大会開催のご案内

企画幹事  
蔵田武志（産総研）

---

2020年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は広島大学において開催されます。

会期：2020年3月17日（火）～20日（金）  
会場：広島大学 東広島キャンパス（東広島市）

最新情報につきましては下記をご覧ください。  
HP：<https://www.ieice-taikai.jp/2020general/jpn/>

電子情報通信学会では、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）を含む5ソサイエティ1グループが一堂に会して開催されます。今年の総合大会では、3月19日（木）に、プレナリーセッションが開催されます。本セッションでは、まず、「未来に輝く電子情報通信学会に向けて」と題して、電子情報通信学会会長の中沢正隆氏による講演の後、学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式がおこなわれます。また、本セッション後半では、広島大学理学研究科代数数理講座教授の松本眞氏による講演「擬似乱数の世界標準：メルセンヌツイスター」、並びに広島大学宇宙科学センター長の川端弘治氏による講演「広島から挑むマルチメッセンジャー天文学」を聴講することができます。

総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても44件の企画セッションが提案されております。HCG関連では、新たなステージへと歩みを進めるために解散が決まった食メディア研究会による「食と情報処理のこれまでとこれから - 食メディア研究会の活動を振り返りながら語る未来 -」と題する企画セッションが予定されております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

---

FIT2020(第19回情報科学フォーラム)投稿のご案内

企画幹事  
蔵田武志（産総研）

---

本フォーラムは、IPJSJ 全国大会と ISS ソサイエティ大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現しながら、2002年から毎年継続して開催しております。

前回大会では、「トップコンファレンスセッション」が新設されました。各分野でのトップレベルの国際会議・学術雑誌に最近数年以内に採録された論文の著者にその内容を紹介して頂く特別なセッションで、3日間7セッション計37件の発表をしていただきました。「IT情報系キャリア研究セッション」では、企業10社と学生とが直接対話する機会を提供することができました。託児所

開設も試行されました。

FIT2020（第19回情報科学フォーラム）は、北海道大学で開催されます。皆様の研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮ってご応募ください。

会期：2020年9月1日（火）～3日（木）  
会場：北海道大学 札幌キャンパス（北海道札幌市北区）

最新の情報は下記のURLをご参照ください。  
HP：<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2020/>

=====  
電子情報通信学会「ヒューマンコミュニケーション特集号」（和文論文誌A）  
論文募集のご案内

HC 特集号編集委員長  
竹内勇剛（静岡大学）

-----  
ヒューマンコミュニケーション研究に関する研究論文を広く募集します。下記の対象分野だけでなく、ヒューマンコミュニケーションに関わる新しい分野の参入も期待しています。なお、本特集号では次に挙げる3点を重視した査読を行います。

1. 研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ
2. ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無
3. 既存の研究・製品・サービスに対する研究の有用性・新規性の位置づけの明確さ

また本特集では、研究分野の性質上、統計的な処理が困難な少数の実験参加者からなるものや、定性的研究、ケーススタディなど、ヒューマンコミュニケーション研究の発展に寄与することが期待されれば積極的な姿勢で受け入れていきます。

多くのご投稿をお待ちしております。

#### 【対象分野】

ヒューマンコミュニケーション基礎 / ヒューマン情報処理 / メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎 / 福祉情報工学 / 発達障害支援 / ヒューマンプロブ / 食メディア / 情報の認知と行動 / ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション / 魅力工学 / リアルタイムコミュニケーション言語などヒューマンコミュニケーションに関する研究全般あるいは新領域

#### ■ スケジュール

投稿期限 2020年4月17日（金）

発行年月 2021年2月号（電子情報通信学会 Vol. J104-A, No. 2）

#### ■ 投稿方法

○電子情報通信学会 論文投稿システム（下記URL）を用いて、「A 基礎・境界：[特集 HA] ヒューマンコミュニケーション」へ電子投稿してください。

[https://review.ieice.org/regist/regist\\_baseinfo\\_j.aspx](https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx)

○追加のデジタルデータを論文の査読プロセスにおける参考資料として添付することができます（ただし論文が採録されてもこのデータは公表されません）。

■ 特集号編集委員会

委員長 竹内勇剛（静大）  
副委員長 小森政嗣（阪電通大）  
幹事 近藤一晃（京大） 坂本 隆（産総研） 新井田 統（KDDI 総合研）  
委員 安藤英由紀（阪大） 繁榊博昭（高知工科大） 石井 亮（NTT）  
寺田和憲（岐阜大） 松田昌史（NTT） 宮崎慎也（中京大）  
塙 大（名古屋市大） 道満恵介（中京大） 永井岳大（東工大）  
酒向慎司（名工大） 藤田和之（東北大） 塩野目剛亮（帝京大）  
馬田一郎（KDDI 総合研） 坂井田瑠衣（NII）

■ 問い合わせ先

竹内勇剛（静大） takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp

=====

研究会活動紹介（HIP 研究会）

HIP 運営委員長  
蒲池みゆき（工学院大）

-----

ヒューマン情報処理研究専門委員会（HIP）は、人の情報処理に関わる様々な研究領域が集まり、研究活動を発表する場を設けています。2019 年度は他の学会研究会との共催を含め、6 回の研究会を開催しております。

人の情報処理の研究領域は、心理学はもとより工学、脳科学、生理学、情報学、社会学など文理を問わず認知科学分野全般にわたります。また、人の感知する感覚情報の入出力全てを網羅しますので、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の各感覚、およびそれらを複数组み合わせたマルチモーダル、クロスモーダルな処理機能やモデルについて、様々な議論を行うには最適な研究会であると自負しております。近年爆発的に産業界で利用が活発になってきた AI に関連する研究分野も、今後なお一層人間の認知精度との比較などにおいての探求が必要な領域です。

新たなデバイスを提案したい、新規性の高いアプローチの実験や解析を行ったがどこに発表しにいったらいいのかわからないという方がご自身はもとより周りにいらっしゃれば、ぜひ HIP をご検討いただくようお願いください。学生さんをはじめとした若手による発表も、大いに推奨しております。

今年度からの大きな研究会運営上の変化として、HIP では HCG 全般での移行に先駆け、技報の電子化を開始いたしました。研究会会場でのダウンロードもほとんどの会場の場合で可能ですが、研究会開催 1 週間前からダウンロード可能ですので、ぜひ事前申し込みの上であらかじめご準備下さるようお願いいたします。

全国各地で開催される研究会とともに、FIT や HCG シンポジウム、信学会総合大会でも様々な領域からの発表セッションを HIP として設けています。これらの大会等で HIP 企画として何かご提案がございましたら、HIP 担当者までご連絡をいただきたいと思っております。

なお、開催される各研究会での発表募集は下記のホームページで随時アナウンスを行っています。

ヒューマン情報処理研究専門委員会（HIP）のホームページ：  
<https://www.ieice.org/~hip/index.html>

---

---

研究会活動紹介（CEA 研究会）

CEA 運営委員長  
橋本敦史（OMRON SINIC X）

---

食メディア研究会(CEA: Cooking and Eating Activities)は、その前身である料理メディア研究会(2006-2010 年度)から数えて 13 年間活動をして参りました。設立当初、食に関する工学的研究の多くは、一次産業や食品工場などの生産現場に限られており、家庭など日常生活の場における「食」の営みを対象とした研究は、ある種、風変わりな研究として捉えられているところがありました。設立当初から、本研究会は一貫して「食」が人間の基本的な生活行動の一つであり、健康、教育、娯楽といった様々な健康・文化活動の一角をなす重要な活動であるという視点を持って、「食」を対象とした情報工学的な解析・支援・問題解決への研究活動を奨励する取り組みを続けて参りました。

この 13 年の間に、写真からの摂取品目や栄養情報を推定する研究、見た目や食感・香りなど多数の感覚器を統合して認知する「食べる」という行動に付随する共感覚を対象とした研究群や、美術作品に対する審美的感覚と料理写真の見た目から受ける魅力の違いに関する研究、あるいはレシピを媒介とした技能伝達や、食卓を囲んだコミュニケーション特有の性質に関する研究など様々な研究が発表・議論されて来ましたが、これらひとつひとつはもちろん各研究グループによる成果ではありますが、研究会としてはこのように情報工学の内外にはみ出しつつ進められた分野横断的な研究を育むゆりかごのような役割を果たすことができ、また、国内に「食」と中心とした研究コミュニティを形成することができたと考えています。

近年の深層学習を始めとする幾つかの技術的ブレークスルーをきっかけに、世界的にも「食×IT」の潮流が見え始めていることも後押しして、近年では食に関する研究発表は「風変わり」とみなされることもなくなり、若い研究者がそれぞれの専門分野の研究会で評価されるようになり、活躍の場も得られるようになっていきました。このような背景から、食メディア研究会は 2019 年度をもってその国内での活動を終え、今後は国際会議ワークショップである Multimedia for Cooking and Eating Activities の運営を通じた国際的な研究コミュニティの構築に注力していくことを決めました。HCG には、このような「ゆりかご的」研究会を長年に渡り力強く支援していただき、感謝の言葉もありません。研究会は終えますが、育まれた研究者のコミュニティが消えることはありません。これからも、HCG の内外で個々に研究活動を続けて行きたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

研究会 Web サイト：  
<http://www.ccm.media.kyoto-u.ac.jp/CEA/>

=====

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、  
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

-----

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□  
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ  
Copyright (c) 2020 IEICE, All Rights Reserved.  
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

-----

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨 [henkou@ieice.org](mailto:henkou@ieice.org) まで  
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ  
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。  
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの  
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、  
[henkou@ieice.org](mailto:henkou@ieice.org) までご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice  
(社)電子情報通信学会 サービス事業部  
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659